平成２８年度日立市教育研究会先進校等調査派遣研修報告書

日立市立中里小学校　教諭　白石　和広

１　派遣期日　　平成２８年６月２４日（金）

２　研 修 先　　学校名（会場名）千葉大学教育学部附属小学校

所在地　千葉県千葉市稲毛区弥生町１－３３

http://www.el.chiba-u.jp/

３　研修内容　　第４９回公開研究会　「学びを楽しむ授業」

（１）全体会

研究のねらい：「学びを楽しむ授業」の実践事例を集積し，子どもの姿から「学びを楽しむ授業」の実際を明らかにしていく。また，各教科領域における子どもの「学びを楽しむ姿」の実際から，その表出要因を分析・考察し，授業づくりの要点を見いだす。

※「学びを楽しむ授業」とは，「ものやことの本質や価値に自ら迫り，他者とかかわり認め合いながら自分のものとする過程において，前向きな感情や意志をはたらかせている姿」で，平成２２年度から継続研究している。また「学びを楽しむ」姿は，「自ら迫る」が能動性，「他者とのかかわり合い」が対話性，「自分のものとする程」が過程の重視，「前向きな感情や意思を働かせる」が主体性ととらえられ，次期学習指導要領の改訂の方向性と同様である。

今までの研究から，「学びを楽しむ授業」の表出要因が整理されていた。

教材での要件	活動での要件	指導方法での要件
・実感を伴う自分とかかわりが深い ・意外性から疑問がもてる ・多様に考えたり，行動したりすることが促される	・自分の考えの明確化を図れる ・よりよいものを共に目指す ・必然性がある	・これまでの学び，自分・友達の考えを可視化する ・活動を保障する事前の設定がある ・学びにつなげる教師の言葉

（２）授業公開　　算数科２授業を参観

算数科では「児童が主体的に軸となる考え方を活用して問題解決をする姿」を求めて研究してきた。「軸となる考え方」とは，「児童が実際に授業において問題解決に活用でき，単元または学年をまたいで同系統の学習を貫く考え方」である。次の２授業の「軸となる考え方」は，「数と計算における単位の考え方」である。

①４学年算数「１億をこえる数」

○児童が主体的に数の構成的な見方や相対的な見方から数をとらえることをねらう授業

○数を構成的・相対的に見ることに対する必然性があり，児童の主体的な活動を保障する素材として，「１億，1000 万，100 万のカードを取るじゃんけんゲーム」「1000 万のみのカードを取るじゃんけんゲーム」を行い，集めたカードをどうやって分かりやすく表すかという視点での実践である。

○この授業の課題解決場面は「グループで話し合う場面を特に用いず，全体や固定しないまわりの児童と考えを伝え合う」「教師が司会役となり，さまざまな表現の児童の考えについて共通点・相違点を明らかにしてまとめ，児童同士の考えをつなぐ」方法で行われ，１単位時間内に深い学び・対話的な学びを収める配慮がされていた。

○特に児童の発言をつなぐ教師の言葉では，見通しを持たせる場面で「どうしたら～が確かめられるの？」，比較検討の場面で「言い直して」（算数的用語を活用させる）「～ということだね」（要点整理し分かる表現にする）「どうしてそうなったの？」（理由の明確化）など，深い学び・対話的な学びにつながる言葉が意図的に使われていた。

②２学年算数「1000 までの数」

○数を比べるときに，どちらの数が大きいかを各位の数に目を向けて説明させることをねらった授業

○始めの数カードを用いた「教師対児童での３桁の数の大きさ比べ」では，左から数を並べていくとすぐに勝敗が分かってしまうことから，数の大きさを比べるときは大きい位から順に考えていけばよいことを理解させていた。

○次に３桁の数のうち□を１つ用いるようにし，８９４と８□２などの場面で□に何を入れればゲームが勝てるかを考えさせた。この活動で，各位に注目して大きい数の比べ方を根拠を明らかにして説明させる場面を設定していた。

○このようにして，児童自身に理由を考えようと思わせる工夫を行い，数の大小比較では各位の数に目を向けて大きい位から比べるとよいことを理解させ，軸となる考え方を活用した問題解決の場面が実践されていた。

（３）分科会

①質疑・応答で出された内容の抜粋

○「板書に学習問題を書かなかった」「児童にノートを書く時間を確保しなかった」意図→本授業は活動から入ったので最初にはノートに書く必要がないと判断した。学習問題（課題）を書くことは，授業において絶対やらないといけないわけではない。また４月から授業で指導し，ノートは必要な時に話を聞きながらでも書くように指導している。

○本授業では，自分の考えをあまりノートに書かないで進んでいたが，授業の看取りはどのようにしているか。→振り返りをノートに書かせているので，それを用いて行う。

○教科書を使用していなかったが，普段はどのように使用しているか。→課題解決のヒントとして，適応練習の問題として活用している。

○授業の流れが「課題提示」「見通し」「自力解決」「比較検討」「まとめ」「適応練習」「振り返り」ではなく，ゲームの活動と教師による進行が中心で授業が流されていたことについての意図→授業の流れは大切であるが，題材や内容によって流れの一部を省略する場合があって良いと考える。

②講師の指導から

○人の話を聞いてそれを自分のものにすることも，学び合いの１つである。グループ活動を用いないこともある。軸となる考えがしっかりと捉えられているので問題はない。

○アクティブ・ラーニングの３つ「主体性」「対話性」「深い学び」のうち，深い学びが重要であると思う。これは，算数の見方・考え方にあたる。評価が重要となってくる。算数好きの子は，「しっかりと認められ，評価されている子」である。

○アクティブ・ラーニングの視点からの学習過程

・ねらいと実態によって，学習形態（グループ・ペア・一斉）は変わる。

・深い学びは，学習活動において「軸となる考え方」を使ったり，発展的に考えたりする姿と考えられる。

・対話的な学びは，考えを広げ深めること。その手段として伝え合いがあり，伝え合いをやればよいのではない。目的を持った学び合いが重要となる。

・主体的な学びは，見通し，振り返り（「分かったこと」「今度やってみたいこと」「できるようになったこと」など学習感想も含む），必然性がある問題解決で行われる。

４　感想

今回は次期学習指導要領の方向性（特に「アクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）」を重視した指導）について，具体的にどのように現状の指導を改善していくかを捉えるため視察した。本校では，コミュニケーション力を「人や社会とのかかわりの中で，自他を尊重し，伝え合う力」と定義し，このコミュニケーション能力の育成のための教育課程編成を平成２３年度から取り組んでいる。この中では，全教育活動を通じて，話す・聞く・書く活動の重視し，進んで人とかかわる活動としてグループ・ペア活動の重視して行っている。これが「対話的な学び」「主体的な学び」と対応することが確認できた。

残る「深い学び」については，千葉大学附属小学校算数科の「軸となる考え方」の視点にあたるとの指導があった。本校で考えると小中一貫教育９年間を通して重視する内容や指導方法がこれに該当すると考えられる。今まで小中一貫教育を効果的に進めるため，９年間の年間指導計画作成や小中職員の共通理解を図った指導を行ってきた。よって，今後は「深い学び」の視点での取組として，児童生徒の実態に応じた指導を継続するとともに，さらに具体的に指導内容や方法を明確にして行うことが重要である。